

論文

情報コミュニケーション学会誌 執筆要項

Instructions for Authoring Manuscripts for Transactions of the Communication, Information & Society

情報 太郎
Taro JOHO

学習 映一
Eiichi GAKUSYU

情報大学コミュニケーション学科
School of Communication,
Joho University

情報大学附属情報高等学校
Joho High, Joho Educ. Univ. System

概要（記入例）

1. はじめにこのドキュメントでは、情報コミュニケーション学会の学会誌への投稿論文を作成するための執筆要項を、実際の論文の形式に従って説明します。つまり、このドキュメントが実際の論文の形式で作成されています。著者は、このドキュメントを十分参考にして論文を作成してください。2. 投稿規程投稿する論文は、その内容と記述が、他者の著作権や研究に関わる者の人権を侵害せず、研究上の倫理に反しないよう、十分に配慮されている必要があります。また、著者の中に、少なくとも1名の本学会会員が含まれていなければなりません。3. 投稿種別 3.1 研究論文情報コミュニケーションに関して、新規性のある研究・開発・実践の成果をまとめたものを言います。8 ページを原則とし、これを超過した場合には、下記の金額を請求します。(400 字以内)

Summary（記入例）

This paper examines the meaning of "virtuosity" with reference to such concepts as "Virtual Reality" and "Cyberspace" that are often associated with the Information Society. This analysis enables us to reconsider the meaning of "Virtual Reality" and helps us to avoid terminological confusions and the consequent indistinctness. Further, I examine the character of "Cyberspace" in comparison to the "real world" especially in regard of social interactions. Referring to the phenomenological-sociological theory of Alfred Schütz I argue how the "virtual world" affects the social actions in our "real world". From these considerations I finally draw the conclusion that the "Virtual Reality" makes their way in our "real" communications as an essential factor. This means, that from now on we have to analyze "Cyberspace" as one of our social spheres.

■キーワード（記入例）■

情報メディア、コミュニケーション、社会、ヴァーチャル、学校、教育

1. はじめに

このドキュメントでは、情報コミュニケーション学会の学会誌への投稿論文を作成するための執筆要項を、実際の論文の形式に従って説明します。つまり、このドキュメントが実際の論文の形式で作成されています。著者は、このドキュメントを十分参考にして論文等を作成してください。

2. 投稿規程

投稿する論文は、その内容と記述が、他者の著作権や研究に関わる者の人権を侵害せず、研究上の倫理に反しないよう、十分に配慮されている必要があります。

また、著者の中に、少なくとも1名の本学会会員が含まれていなければなりません。

3. 投稿種類

3.1 研究論文 (Research Paper)

情報コミュニケーションに関して、新規性のある研究・開発・実践の成果をまとめたものを言います。8ページを原則とし、これを超過した場合には、下記(3.5参照)の金額を請求します。

3.2 概観論文 (Review Paper)

情報コミュニケーションに関して、既存の研究がある視点のもとに体系付け、まとめ上げたものを言います。12ページを原則とし、これを超過した場合には、下記(3.5参照)の金額を請求します。

3.3 実践論文 (Practical Paper)

情報コミュニケーションに関して、情報コミュニケーションに関して、必ずしも新規性を強くは問わないが、有用性のある実践の成果をまとめたものを言います。8ページを原則とし、これを超過した場合には、下記(3.5参照)の金額を請求します。

3.4 ノート (Note)

情報コミュニケーションに関する、実践的な研究成果、意見、討論、提案等を記述し、新規性(オリジナリティ)は必ずしも高くなくても、研究の方法と成果を明確に記述したものを言います。4ページを原則とし、これを超過した場合には、下記(3.5参照)の金額を請求します。

3.5 ページ超過の場合の請求額

超過ページ数	請求額
2ページ増まで	20,000円
4ページ増まで	50,000円
6ページ増まで	100,000円

規程ページを6ページを越える場合には、別途ご相談申し上げます。

4. 著作権

本論文誌に採録決定された論文等(以下、論文とします)の著作権は、本学会に帰属します。

採録後の掲載論文について、著者自身による学術教育目的等での利用(著者自身による編集著作物への転載、掲載、WWWによる公衆送信、外国語への翻訳、配布等を含みます)を、学会は無条件で許諾します。

5. 原稿の構成

5.1 タイトル・著者名・要旨

原稿の冒頭には、タイトル、著者名、所属を日英両語で入れてください。タイトルは、論文等の内容が明確に分かるようにし、副題はない方が望ましいです。著者名の英語表記は、姓を大文字のみで記すこととします(Makoto SUZUKIのように)。

また、400字以内の和文要旨と英文サマリーを付けてください。ノートの場合のみ、和文要旨は300字以内、英文サマリーは不要です。

5~6語のキーワードも付けてください(英文キーワードは不要です)。

著者紹介 (記入例)	情報 太郎(じょうほう たろう) 19xx年 和県生まれ。19xx年 東京情報理科大学卒業。19xx年 理学博士取得。19xx年 明京大学工学部講師。19xx年 同教授。20xx年 同大情報科学研究所所長。
	学習 映一(がくしゅう えいいち) 19xx年 東京都生まれ。19xx年 東京情報理科大学卒業。19xx年 理学博士取得。19xx~20xx年 情報大学付属情報高等学校教諭。

5.2 本文

ページの本文部分は、2段組で23字×44行が原則です。

はじめに/序論では、研究の背景、研究を始めた

動機を説明してください。また、論文内容の要約と得られた成果を簡潔に説明してください。

本文内容では、研究の方法（実験方法、分析方法等）、得られた結果、知見、先行研究との比較、考察などについて、図表を用いて説明してください。

まとめ／結論では、得られた結論や成果を簡潔に記してください。ここは、できれば箇条書きとして、もし残された課題があれば簡単に書いてください。

原稿執筆に際しては、他者の著作権や、研究に関わる個人・集団（研究対象となった個人・集団や研究に関連のある個人・集団）のプライバシーや名誉に関する十分な配慮のもとに行ってください。

本文中の句読点は、読点「、」と句点「。」を用いることを原則とします。

5.3 図表の形式、図の挿入

図、写真、表は著者がオリジナルに作成したものを使用してください。

図、写真、表の作成にあたっては、コンピュータ等を用いてきれいに作成してください。原則として一色とし、カラーは使用しません。もし、カラー印刷を希望する場合には、申し出により著者が制作実費を負担する場合に限って認めます。

また、図1、表1、写真1のように一連番号を付するとともに、必ず題を付けてください。

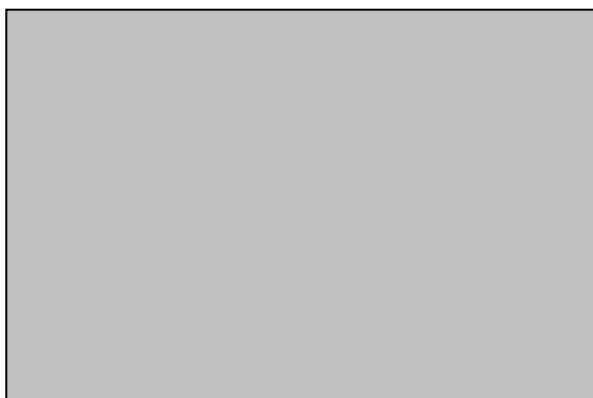
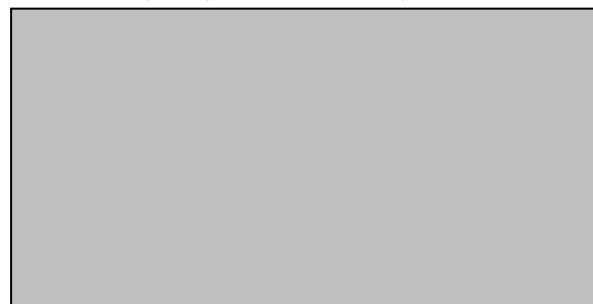


図1 図と写真のキャプションは図や写真の下

表1 表のキャプションは表の上



5.4 見出し

本文は必要に応じて章、節、項に分け、章は「1. ○○○」、節は「1. 1×××」、項は「(1) △△△」のように記し、章、節、項の見出しに続く文章は改行して、1文字下げで始めます。章、節の間には、1行空けてください。ただし、項の間は空けません。

5.5 注リスト

注はできるだけ少なくしてください。注を入れる場合は、論文等の最後、参考文献の前に一括して入れ、本文中の該当箇所の右肩に1、2のように上付文字で注番号を示します。

5.6 参考文献リスト

参考文献は、論文中の表出順に通し番号を付して末尾に一括記載し、本文中の該当箇所に引用番号を [1] や [2-5] のように記します。なお、書籍の場合には、引用ページか章番号を明記することが望ましいです。この場合は、[1,p.43] や [1,pp.25-27]、[1,第3章] などと記してください。

文献リストに必要な項目と順番は、以下の通りです。

《著書、編書》

[1] 著者名、『書名』 編者名、発行所、発行都市名、発行年。

《雑誌》

[2] 著者名、“標題”、雑誌名、巻、号、pp.を付けて始め～終りのページ、年。

また、文献の表記にあたっては、次の(a)～(d)項に留意してください。

(a) 著者が複数の場合には、全著者の氏名を記入してください。なお、欧文の場合にはイニシャルと姓名を記入し、A.G. Wineのようにイニシャルと姓名の間にのみ半角スペースを挿入してください。

(b) 英文論文の標題中の単語については、文頭以外は小文字を使用することとします。

(c) 欧文文献においては、常に半角ピリオド「.」と半角カンマ「,」を用います。和文文献においては、読点には全角の「、」を用い、

「Vol.」、「No.」、「pp.」あるいは省略記号及び行末の句点には、半角ピリオド「.」を用いてください。なお、Vol.J62-B、No.1、pp.20-27等の場合には、半角ピリオド「.」の後ろにはスペースを挿入する必要はありません。

- (d) 発行年を記載する場合には、西暦を用いてください。

6. 投稿方法

投稿にあたっては、以下のものを下記送付先まで提出してください。

- (a) この「執筆要項」に従って文と図、表、写真を含み、Microsoft Word形式で作成した電子ファイル。レイアウトは、学会のホームページ <http://www.cis.gr.jp/>にあるレイアウト見本を参照のこと。
- (b) 全項目に記入済みの投稿申込書（学会のホームページ <http://www.cis.gr.jp/>からダウンロードのこと）の電子ファイル。

※原則として、投稿原稿は返却しません。

7. 査読基準および採否判定方法

別に定める査読規程に拠ります。

8. 最終原稿の入稿方法（データ形式、入稿物等）

採録通知を受けた著者は、採録通知内に明記されている期限内に、当該原稿の印刷に必要な最終原稿等を編集委員会へ提出してください。期限内に提出のないものについては、原則として取下げの扱いとします。

提出物は、以下の通りです。

- (a) 最終原稿（英文アブストラクト・キーワードを含む）イメージのPDFファイル
原稿イメージは、「5. 投稿方法」で定めるレイアウト見本を参照のこと。
- (b) 最終原稿（テキストデータ）と図表等の電子データ

グラフィック、写真、グラフ、線画などの電子データの提出にあたっては、現在使われている標準的な形式とすることを推奨します。

Microsoft Word、Microsoft PowerPointで外部ファイルの図を参照しているデータの場合は、外部フ

ァイルも必ず用意してください。

また、特殊なものや、印刷にあたっては解像度が低すぎるもの場合は、再提出をお願いする場合があります。

9. 原稿の投稿先

投稿する原稿は、下記へ提出してください。

情報コミュニケーション学会事務局
園田学園女子大学 情報教育センター内
eメール : cis-genkou@sonoda-u.ac.jp

10. 掲載原稿の抜き刷り

掲載された論文等の原稿については、下表の金額にて抜き刷りをお受け致します。

<論文（8ページ）抜き刷りの場合>

最低ロット 50部 50,000円
50部追加ごとに10,000円を加算

<ノート（4ページ）抜き刷りの場合>

最低ロット 50部 30,000円
50部追加ごとに6,000円を加算

抜き刷りのお申し込みは、下記へお願いします。

情報コミュニケーション学会事務局
園田学園女子大学 情報教育センター内
eメール : cis@sonoda-u.ac.jp

注（記入例）

- こうした議論には…
- 本稿は、情報大学の…

参考文献（著書・編書、雑誌の記入項目）

- [1] 情報コミュニケーション学会、「学会誌執筆要綱」、<http://www.cis.gr.jp/> (2008年2月28日アクセス)。
- [2] 著者名、『書名』、発行所、発行都市名、発行年。
- [3] 著者名、「標題」、雑誌名、巻、号、pp.を付けて始め—終りのページ、年。